

---

# RUSH!RUSH!RUSH!

倖月 吾妻

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

RUSH！RUSH！RUSH！

### 【著者名】

NCT-08A

### 【作者略】

倖月 吾妻

### 【あらすじ】

俺の日常を返してくれよ。なんだよ！僕って！なんだよー…皆してハゲつて言つなよー俺まだ18だからー…

## 芋つて呼ぶなよマイハイ

俺が何したって言つんだよ

本当に。

呪われるとしか思えない。

俺の周りは。

もうストレスで禿げてしまいそうなほど髪の毛は薄くなってしまつたし…否、まだある…と個人的には思いたい。  
せめて成人式まではまともで居をさせてくれよマイハイ。

（転校初日）

夜行バスの窓から見える景色は、なんていえばいいんだろう。とにかく何にも無くて。さすが田舎！なんて叫びたくなるほど真っ暗で。暗所恐怖症（電気を消して寝れないんだ）の俺としては学校のトイレ掃除並にきつくて。

それだけならまだ良かつたかもしれないけど（よくないか）素晴らしい事に隣の美人さんはものすごいイビキをかいだいて。涙が出そうになつたよ。出るのを我慢しようとして上を向いたら、…人類の敵がいるし。田舎名物特大ゴキ。涙と一緒に何もかも流れだしそうだったよ。

まあ俺としては久々に会えるイトコの咲季さんに会えるんだから些細なことだけど。

咲季さんだけどこれがまた美人なんだぜ？まあ俺が十歳で咲季さんが十四歳のころだからもう二十一歳か。結婚…してんのかな？関係ないことだけど。

俺が一人で思春期特有の妄想でニタニタ笑いをしていると目を覚ましたのか、隣の美人さん、略して美子が軽蔑の眼差しを向けている。

「さて、軽蔑したいのは俺の方だよ美子さん。車掌さんも引いてたんだよ気付いてる？」

なんて言いたかっただがやめておこう。美人の（多分）咲季さんの友達だったら大変だ。

そんなことを思いながら窓の外を眺める。やっぱり恐い。原因はアレだな。ああアレっていつても分からぬか。俺の兄貴なんだけどものすごいドSでさ、小さい頃毎日押し入れに閉じ込められてたんだ。俺の暗所恐怖症はそこからだと思いたい。

ふと天井を見上げてたら小さなシミがあつた。それを見ているとなんだか気が遠くなつたんだ。

気が付けば朝。何かが俺の腹に乗つている。何かと思えば車掌さんの手だった。爆睡していたらしい俺を起こそうとしてくれたらしい。ズボンのチャックが開いているのは多分寝相だ。そして心なし車掌さんの顔が赤いのはリンゴ病なんだろう。あんな夢を見たのは昨日拾つた工口本のせいだ。そう思わなければ。

そうしなきゃ俺は親友の桶川みたいになつてしまふ。うん。まあそいつは察しの通り正真正銘ゲイだ。桶川の弟の友達とデキてる。

「お客様！もう終点です！」車も持ち帰り下さい！」

車掌さんが焦つたようにぼそぼそと言ひ。

「…？ そう思つて周りを見渡すとものみ「」屋敷ならぬゴミバス。アレだ。美子の仕業だ。乗つたときから常に何かを口にしていたのは分かるがゴミくらには片付ける。

仕方なくゴミをもつて車内から降りる。その時の俺の服装つたら

ありやしない。沖縄土産のハブの皮で作つた何ていう嘘っぽい三味線を肩にかけて。前の学校の思い出（置いて行こうとしたら田障りだから持つていけだつて。皆素直じゃないな）の机と椅子。あれ？いつのまにか背もたれがない。ああまた美子か。

背もたれのなくなつた椅子に表面が禿げかかつた机、背中にはハブの三味線、両手にはゴミ袋。さながら浮浪者じやねーか。みろ、小学生くらいの女の子俺見て号泣してよ。こっちが泣きたいつーのー！

でも泣くのはまだ早い。男が泣くのはときモで振られたときだけだ。俺は泣きっぱなしだけど。

とにかく伯母さん家に行かなきや。俺のマイハニーが待つてゐる！…あ。因みにハニーは咲季さんだから。ん？思い込み？思い込みで悪かつたな。人生は所詮思い込みで成り立つてんだよ。わかつたか。

半泣きになりながら離そつとしない車掌さんの手を振りほどいて早歩きで歩きだす。車掌さんの鼻息が荒かつたのはアレだ。鼻炎だつたんだ。そう思わなくちややつていけそうにない。

しばらく歩くと見覚えのある家が見えてくる。小さな民宿を経営していく、名前は…『咲季の城』。どうしてそんな名前が出てきたのか不思議でたまらない。さながらラブホテルのようだ。いやらしい考えに頭を巡らせながら看板を見上げる。するとそこには天使、否、女神が。

「さつ咲季さん！？」

俺の問い掛けをもの見事にシカト。シカトかよ。んもう照れ屋さんなんだからー諦めないぜマイハニー！

「咲季さんー！！！」

さつきより力を込めて叫んでみる。反応なし。何やら一ヤーヤーと何かを見つめている。何だ？俺をシカトするほど夢中なのかー何と

なく嫉妬の感情が湧いてくる。

「咲季イ！」

どせくさに紛れて呼び捨てしてみる。すると咲季さんらしき人影がゆづくつといづちを向ぐ。やつと氣付いたか、このお茶目さんめ。「聞こえてんだよ禿げ！ テメエ誰を呼び捨てしてんだよ！ この芋が！」

…芋！？ そんなことより誰だアレは。咲季さん？ んなわけないだろう！ 咲季さんはもつと美人で、優しくて、なんかこうおしゃかな人だ。あんなゴリラはきっとアイツだ。

幼き頃の麗しきプリンスだった俺を事あるごとにいじめたアイツ。あるときは一週間家から締め出され、犬小屋に移住させられた。またあるときは金魚の餌を無理矢理入れられて食中毒に。

あの時は本気で殺されると思ったよ。思い出すだけで…アレ？ 目の前が霞む…。

とにかくアイツだ。伊勢麻美。

俺よつ二つも年下のくせに俺の女王様きどりの女。

## #つて呼ぶなよマイバー（後書き）

今までと回りくどき当たりぱったりです。読者様に「マイバーして頂ける作品を是非お読み下さい」とお願いします

あの……手に持つてるものつてもしかして……金属バットですか？

「こんにちは」

俺の背後から声がある。かわいらしき声だ。声優になればいいのに。

「あの！なんか用ですか！？」

俺が声に聞き惚れているとシカトしたのが頭にキタのか声をあげて聞いてくる。まつたく！これだから女ってやつはー

「ああ今日から……」

振り向いて一番先に目に飛び込んではアレだ。凶器だ。普段はゲームの盛り上げ役のアレが可愛らしい少女の手に納まっている。心なしか先端が曲がっていて、……血らしきものも付着している。

そう。バットだ。

よほどびぶつけたのか、といひながらこんでいて光沢を放つはずの体は傷がつき鈍い金色をしている。黄土色（う　子色ともいふ）に近いが。

その凶器から俺は目が離せない。といふか離させてくれない。それというのもその凶器には名前が彫つてあつたんだから。

俺が昔ゴリラ女こと麻美に奪われた全財産をだした金属バットだ。この宝のバットを奪われて俺は野球を諦めたんだ。まあ、サッカーに転向してからも部室に荒らしが入つて部活ができた試はないが。

振り向いた俺の顔を見て麻美は驚いた顔をする。そりやそりや。浮浪者みたいな格好してるやつは自分の親戚でしかも餌だった男だ。まあそれは俺も一緒だ。いじめられていたとはいえ、自分の親戚がすんげえ美人になつてて、しかも凶器を持つてるんだからな。多分鼻の下伸びてた。

「麻美…………おま

「ああー!? 呼び捨てかよー!? オマエだあ? これの仲間にされたいか  
! ?」

可愛い顔が台無しだ。そうでもないが。あらついとか麻美は俺の胸ぐらを掴むと唇がくつつくんじゃないかつてほど近づいて血管切れんじやねえかつてほどテコをゴリゴリ押しつけてくる。顔?恐いに決まつてんだろ! 例えばだな、うん。まあアレだ。

「あ……すいませんでした……麻美……様」

悔しい! 何で俺が中学生なんぞに様付け!? 俺は援交ダイスキ親父か!? ちくしょオ! でも顔近くで幸せだったから更に悔しい! 何でそんないい匂いすんだよ! 何でそんなテコ柔らかいんだよ!! そんな風に自分を責め続けるが弱きプリンスの考えをよそに二ンマリと可愛らしい笑顔をつくつて悪魔の様な言葉を俺のピュアなハートに突き、否、串刺す。

「分かればいいのよ芋」

また芋かよオオオ! なんで!? 俺のドコが芋っぽい! ?  
てか仲間つてナニ! ? もしかして麻美様の後ろにある点々と横たわる死体ですか!? 俺も死体の仲間入り! ? いや、まだそれはわからんぞ俺! あのバットは実はプラスチックでの死体共は演劇仲間でちょうど今やられたかもしれないではないか!!!!!! よし、勇気を出せ俺!

「あの……麻美様!」

「何よ! ?」

「あの……手に持ってるものつてもしかして……金属バットですか?」  
「麻美様はニタリと笑うと嬉しそうに一言。

「正解!」

あの… 手に持つてゐるものひとつもしかして… 金属バットですか？（後書き）

自分で書いて悲しくなります。展開的にラグコメにしたいので頑張ります。評価やアドバイスを頂けると成長すると思いますのでお願いします。そして一話目長くてすみません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5708a/>

---

RUSH!RUSH!RUSH!

2010年10月22日00時11分発行